

調査結果の概要

※各項目の回答率（％）は、小数第 2 位を四捨五入しており、小計の実数と％が異なる場合があります。

1 県の広報活動について

（１） 県の広報活動の認知状況

「新聞記事、テレビ・ラジオやインターネットのニュースなどのマスコミ報道」が 41.2%

県の広報活動の認知状況について、「新聞記事、テレビ・ラジオやインターネットのニュースなどのマスコミ報道」と答えた人の割合が 41.2%と最も高く、続いて「新聞広報『広報あいち』（毎月第 1 日曜日に掲載）」（37.6%）、「市町村が発行している広報紙（誌）による県の広報」（31.7%）の順となっている。

（２） 県の情報の入手方法

「新聞記事、テレビ・ラジオやインターネットのニュースなどのマスコミ報道」が 43.2%

県の情報の入手方法について、「新聞記事、テレビ・ラジオやインターネットのニュースなどのマスコミ報道」と答えた人の割合が 43.2%と最も高く、続いて「新聞広報『広報あいち』（毎月第 1 日曜日に掲載）」（24.3%）、「市町村が発行している広報紙（誌）による県の広報」（23.6%）の順となっている。

（３） 県の広報活動に対する満足度（評価）

“満足（評価）している” が 34.7%

県の広報活動に対する満足度（評価）について、「十分満足（評価）している」（4.0%）と「ある程度満足（評価）している」（30.7%）を合わせた“満足（評価）している”と答えた人の割合は 34.7%となっている。

一方で、「あまり満足（評価）していない」（18.2%）と「まったく満足（評価）していない」（5.3%）を合わせた“満足（評価）していない”と答えた人の割合は 23.5%となっている。

（４） 県の広報活動を充実させる方法

「新聞記事、テレビ・ラジオやインターネットのニュースなどのマスコミ報道」が 33.2%

県の広報活動を充実させる方法について、「新聞記事、テレビ・ラジオやインターネットのニュースなどのマスコミ報道」と答えた人の割合が 33.2%と最も高く、続いて「愛知県が運用する SNS（X、LINE、Instagram 等）」（25.4%）、「愛知県提供のテレビ広報番組」（20.9%）の順となっている。

2 県警の広報活動について

(1) 警察の発信情報の入手先

「テレビ」が 65.2%

警察が発信する情報の入手先について、「テレビ」と答えた人の割合が 65.2%と最も高く、続いて「インターネットニュースサイト」(38.2%)、「新聞」(35.3%)の順となっている。

(2) 警察に力を入れてほしい情報発信手段

「テレビ」が 40.0%

今後警察に力を入れて欲しい警察の情報発信手段について、「テレビ」と答えた人の割合が 40.0%と最も高く、続いて「インターネットニュースサイト」(29.8%)、「新聞」(21.1%)の順となっている。

(3) 防犯のために必要な情報

「流行りの手口」が 73.4%

防犯のために必要な情報について、「流行りの手口」と答えた人の割合が 73.4%と最も高く、続いて「犯罪の発生が多い地域」(60.7%)、「被害防止対策の方法」(57.9%)の順となっている。

3 地域の治安と防犯について

(1) 地域の治安状況

「以前と変わらない」が 52.3%

地域の治安の以前(3年ほど前)からの変化について、「以前と変わらない」と答えた人の割合が 52.3%と最も高くなっている。

「とても良くなっている」(0.8%)と「良くなっている」(4.2%)と「少し良くなっている」(4.6%)を合わせた“良くなっている”と答えた人の割合は 9.6%となっている一方で、「少し悪くなっている」(16.6%)と「悪くなっている」(5.3%)と「とても悪くなっている」(1.0%)を合わせた“悪くなっている”と答えた人の割合は 22.8%となっている。

(2) 治安が悪くなっていると思った理由

「地域の住宅や公園などの防犯上の環境が悪くなったから」が 23.4%

治安が悪くなっていると思った理由について、「地域の住宅や公園などの防犯上の環境が悪くなったから」と答えた人の割合が 23.4%と最も高く、続いて「地域の事件の報道が多いから」(21.9%)、「地域で犯罪の被害が発生したから」(21.4%)の順となっている。

(3) 防犯対策で特に力を入れてほしいと思うこと

「防犯カメラの設置」が40.4%

防犯対策で特に力を入れてほしいと思うことについて、「防犯カメラの設置」と答えた人の割合が40.4%と最も高く、続いて「警察による犯罪の取締り・パトロール活動」(29.2%)、「住宅地や公園などへの、街路灯及び照明灯の設置、樹木の伐採による見通しの確保」(26.1%)の順となっている。

(4) 特殊詐欺対策として実践していること

「携帯電話やスマートフォン等で迷惑メールを拒否する設定にしている」が47.2%

特殊詐欺対策として実践していることについて、「携帯電話やスマートフォン等で迷惑メールを拒否する設定にしている」と答えた人の割合が47.2%と最も高く、続いて「固定電話を常時留守番電話設定にしたり、被害防止機能付き電話機を活用している」(36.3%)、「家族で特殊詐欺を話題にするようにしている」(32.8%)の順となっている。

一方で、「何もしていない」と答えた人の割合は17.1%となっている。

(5) 侵入盗対策として実践していること

「センサーライトを設置している」が37.5%

侵入盗対策として実践していることについて、「センサーライトを設置している」と答えた人の割合が37.5%と最も高く、続いて「高額な現金や貴重品を保管しないようにしている」(32.2%)、「窓やドアの対策をしている(補助錠、警報器、ガードプレートなどを取り付けている)」(26.2%)の順となっている。

一方で、「何もしていない」と答えた人の割合は26.1%となっている。

(6) 自動車盗対策として実践していること

「何もしていない」が54.0%、実践している対策は「警報装置を設置している」が19.5%

自動車盗対策について、「何もしていない」と答えた人の割合が54.0%と最も高く、「警報装置を設置している」(19.5%)、「イモビライザーを取り付けている」(12.9%)、「ハンドル固定装置やタイヤロックを使用している」(8.1%)の順となっている。

4 幸福感について

(1) 幸福感の程度

幸福感の平均点は、10点満点中「6.8点」

県民の幸福感について、「8点」と答えた人の割合が23.6%と最も高く、続いて「7点」(18.3%)、「5点」(16.8%)の順となっており、平均すると「6.8点」となっている。

(2) 幸福感を判断する際に重視した事項

「健康状況」が62.2%

幸福感を判断する際に重視した事項について、「健康状況」と答えた人の割合が62.2%と最も高く、続いて「家計の状況(所得・消費)」(54.1%)、「家族関係」(49.6%)の順となっている。

5 文化芸術について

(1) この1年間の文化芸術の鑑賞方法

「直接会場に足を運んだ」が47.6%

この1年間の文化芸術の鑑賞方法について、「直接会場に足を運んだ」と答えた人の割合が47.6%と最も高く、続いて「テレビ放送で鑑賞した」(41.9%)、「オンライン(無料)で鑑賞した」(21.4%)の順となっている。

一方、「鑑賞しなかった」は22.4%となった。

(2) この1年間に文化芸術を鑑賞しなかった理由

「関心がなかった」が52.9%

この1年間に文化芸術を鑑賞しなかった理由について、「関心がなかった」と答えた人の割合が52.9%と最も高く、続いて「仕事・家事・家業などで時間がなかなか取れなかった」(13.1%)、「魅力ある公演や展覧会などが少なかった」(9.0%)の順となっている。

一方で、「特になし」と答えた人の割合は12.8%となっている。

(3) 文化芸術を対象とした寄付に対する意識

「寄付をしたことがなく、今後も寄付をしたいとは思わない」が39.8%

文化芸術を対象とした寄付に対する意識について、「寄付をしたことがあり、今後も寄付をしたい」(6.4%)と「寄付をしたことがないが、今後は寄付をしたい」(18.1%)を合わせた“寄付をしたい”と答えた人の割合は24.6%となっている一方で、「寄付をしたことがあるが、今後は寄付をしたくない」(1.0%)と「寄付をしたことがなく、今後も寄付をしたいとは思わない」(39.8%)を合わせた“寄付をしたくない”と答えた人の割合は40.8%となっている。

(4) 愛知県が誇る文化芸術資源

「ある」が 52.5%

愛知県が誇る文化芸術資源について、「ある」と答えた人の割合は 52.5%となっている一方で、「ない」と答えた人の割合は 4.6%となっている。

(5) 愛知県が注力すべき文化芸術振興施策

「観光や福祉、産業、街づくりなどと連携した取組」が 32.2%

愛知県が注力すべき文化芸術振興施策について、「観光や福祉、産業、街づくりなどと連携した取組」と答えた人の割合が 32.2%と最も高く、続いて「美術館、劇場などの文化芸術施設の充実」(27.8%)、「子供の文化芸術活動の推進（子供が文化芸術に触れる機会の提供など）」(26.3%)の順となっている。

6 環境について

(1) 環境問題に対する関心

「地球温暖化」が 75.4%

関心のある環境問題について、「地球温暖化」と答えた人の割合が 75.4%と最も高く、続いて「廃棄物問題（不法投棄、海洋プラスチックごみ、食品ロスなど）」(56.1%)、「海や川の汚れ」(32.8%)の順となっている。

(2) 環境問題に関心を持ったきっかけ

「新聞、雑誌、テレビ、ラジオからの情報」が 62.5%

環境問題に関心を持ったきっかけについて、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオからの情報」と答えた人の割合が 62.5%と最も高く、続いて「インターネットからの情報」(31.7%)、「学校での環境教育（授業・クラブ活動など）」(13.8%)の順となっている。

(3) 環境にやさしい行動

「ごみの分別を行う」が 83.4%

環境にやさしい行動について、「ごみの分別を行う」と答えた人の割合が 83.4%と最も高く、続いて「買い物袋（マイバッグ）を持参したり、過剰包装を断る」(69.2%)、「食べ残し、飲み残しをしないように心がける」(67.0%)の順となっている。

(4) 環境学習や環境保全活動への参加状況

「資源回収活動」が 44.5%

環境学習や環境保全活動への参加状況について、「資源回収活動」と答えた人の割合が 44.5%と最も高く、続いて「地域や河川・海岸等の清掃活動」(24.4%)、「ごみ減量やエネルギー、自然など環境について学べる施設の見学」(11.4%)の順となっている。

また、「参加したことはないが、機会があれば参加したい」と答えた人の割合は 25.6%となっている。

(5) 家族や友人等で行った環境学習の実施状況

「家族や友人等で節電やごみ分別などを呼び掛け合ったことがある」が37.1%

家族や友人等で行った環境学習の実施状況について、「家族や友人等で節電やごみ分別などを呼び掛け合ったことがある」と答えた人の割合が37.1%と最も高く、続いて「家族や友人等で自然が豊かなところに行き、自然体験をしたことがある」(25.8%)、「学校や会社等で環境について学んだことを、家族や友人等で話し合ったことがある」(22.4%)の順となっている。

一方「実施したことがない」は26.7%となっている。

7 自然・いきものについて

(1) 「生物多様性」の認知度

“意味を知っている”が55.7%

生物多様性の認知度について、「言葉の意味をよく知っている」(10.4%)と「言葉を聞いたことがあり、意味もある程度知っている」(45.3%)を合わせた“意味を知っている”と答えた人の割合は55.7%となっている一方で、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(32.1%)と「言葉を聞いたこともない」(10.0%)を合わせた“意味を知らない”と答えた人の割合は42.1%となっている。

(2) 生物多様性保全活動に対する意識

「自然観察会や探鳥会、自然体験ツアー（エコツアー）などのイベント」が20.7%

参加したい生物多様性保全活動について、「自然観察会や探鳥会、自然体験ツアー（エコツアー）などのイベント」と答えた人の割合が20.7%と最も高く、続いて「里山や湿地、河川、海岸などの美化・保全活動」(19.6%)、「樹林や水辺など生きもののすみかとなる植樹やビオトープづくり」(11.6%)の順となっている。

一方「参加したいとは思わない」は19.4%、「わからない」は26.3%となっている。

8 農林水産業との関わりについて

(1) 農林水産物等の産地に対する意識

“国産であれば、愛知県産にはこだわらない”が54.3%

県産農産物等を優先して購入したい県民の割合について、「価格が多少高くても、愛知県産をできる限り優先して購入する」(5.0%)と「価格が他産地と同等であれば、愛知県産をできる限り優先して購入する」(14.6%)を合わせた“愛知県産をできる限り優先して購入する”と答えた人の割合は19.6%となっている。

「国産であれば、愛知県産にはこだわらず、価格で判断して購入する」(28.8%)と「国産であれば、愛知県産にはこだわらず、味・鮮度で判断して購入する」(25.5%)を合わせた“国産であれば、愛知県産にはこだわらない”と答えた人の割合は54.3%となっている。

「産地にはこだわらず(愛知県産、国産、外国産など関係なく)、価格で判断して購入する」(10.7%)と「産地にはこだわらず(愛知県産、国産、外国産など関係なく)、味・鮮度で判断して購入する」(5.7%)を合わせた“産地にはこだわらない”と答えた人の割合は16.4%となっている。

(2) 「いいともあいち運動」の認知度

「まったく知らない」が71.5%

「いいともあいち運動」の認知度について、「よく知っている」(2.7%)と「内容はよく知らないが、名前を聞いたことがある、またはマークを見たことがある」(24.2%)を合わせた“知っている”と答えた人の割合は26.9%となっている。

一方で、「まったく知らない」と答えた人の割合は71.5%となっている。

(3) 「花の王国あいち」の認知度

「まったく知らない」が64.2%

花の王国あいちの認知度について、「まったく知らない」と答えた人の割合が64.2%と最も高く、続いて「内容はよく知らないが、名前を聞いたことがある、またはマークを見たことがある」(23.5%)、「よく知っている」(10.5%)の順となっている。

9 食育について

(1) 家族や友人などと食事をとる頻度

「ほとんど毎日とっている(週6~7日)」が62.4%

家族や友人などと食事をとる頻度について、「ほとんど毎日とっている(週6~7日)」と答えた人の割合が62.4%と最も高く、続いて「ほとんどとっていない(週0~1日)」(14.4%)、「週4~5日とっている」(10.8%)の順となっている。

(2) 野菜を食べる頻度

「1日1回食べる」が39.5%

野菜を食べる頻度について、「1日1回食べる」と答えた人の割合が39.5%と最も高く、続いて「1日2回食べる」(36.8%)、「1日3回以上食べる」(17.1%)の順となっている。

(3) 朝食の摂取状況

「ほとんど毎日食べる(週6~7日)」が77.8%

朝食の摂取状況について、「ほとんど毎日食べる(週6~7日)」と答えた人の割合が77.8%と最も高く、続いて「ほとんど食べない(週0~1日)」(9.6%)、「週4~5日食べる」(6.9%)の順となっている。

(4) 適正体重の認識と体重コントロールの実践

「適正体重を認識しているが、体重コントロールは実践していない」が43.2%

適正体重の認識と体重コントロールの実践について、「適正体重を認識しているが、体重コントロールは実践していない」と答えた人の割合が43.2%と最も高く、続いて「適正体重を認識し、体重コントロールを実践している」(35.0%)、「適正体重を認識していないが、体重コントロールは実践している」(11.0%)の順となっている。

10 観光客誘致等について

(1) 本県の観光資源

「なごやめし等の地元グルメ」が57.5%

県の観光資源として打ち出すべきものについて、「なごやめし等の地元グルメ」と答えた人の割合が57.5%と最も高く、続いて「自動車や航空宇宙等のものづくり」(39.5%)、「城・神社仏閣等の名所・旧跡」(35.3%)の順となっている。

(2) 観光に対する意識

“そう思う”が72.2%

海外や県外の人に、「愛知県が観光地として魅力があると評価されたら、誇りに感じますか」という観光に対する意識について、「とてもそう思う」(31.5%)と「ある程度そう思う」(40.7%)を合わせた“そう思う”と答えた人の割合は72.2%となっている一方で、「あまりそう思わない」(6.9%)と「まったくそう思わない」(2.3%)を合わせた“そう思わない”と答えた人の割合は9.2%となっている。

(3) 観光客誘致に対する意識

“誘致したいと思う”が51.4%

観光客誘致に対する意識について、「大いに推進され、誘致したい(誘致すべき)と思う」(13.8%)と「ある程度推進され、誘致したい(誘致すべき)と思う」(37.5%)を合わせた“誘致したいと思う”と答えた人の割合は51.4%となっている一方で、「あまり推進されるべきでなく、さほど誘致したい(誘致すべき)とは思わない」(8.4%)と「まったく推進されるべきでなく、誘致したい(誘致すべき)とは思わない」(2.5%)を合わせた“誘致したいとは思わない”と答えた人の割合は10.9%となっている。

(4) 観光が果たす役割

“役割を果たすと思う”が69.2%

観光が愛知県にとって有益な役割を果たすかについて、「大きな役割を果たすと思う」(19.4%)と「ある程度役割を果たすと思う」(49.8%)を合わせた“役割を果たすと思う”と答えた人の割合は69.2%となっている一方で、「あまり役割を果たすとは思わない」(4.7%)と「まったく役割を果たすとは思わない」(1.6%)を合わせた“役割を果たすとは思わない”と答えた人の割合は6.3%となっている。

(5) 観光による生活への影響

「宿泊・飲食サービス業を中心に、多様な産業で経済効果が生まれる」が58.6%

観光による生活への影響について、「宿泊・飲食サービス業を中心に、多様な産業で経済効果が生まれる」と答えた人の割合が58.6%と最も高く、続いて「観光客のマナー違反（ゴミや騒音など）で住環境が悪化する」(54.3%)、「観光地及びその周辺地域や店舗等が混雑する」(39.1%)の順となっている。

1 1 住まいについて

(1) 現在の住まいに対する将来的な不安

「地震などの災害時の安全性」が18.7%

現在の住まいに対する将来的な不安について、「地震などの災害時の安全性」と答えた人の割合が18.7%と最も高く、続いて「住宅そのものや設備などが古くなり、このまま住み続けられるか」(11.6%)、「住宅ローンや家賃の支払いが続けられるか」(10.4%)の順となっている。

一方で、「特に不安はない」と答えた人の割合は12.6%となっている。